

「頸動脈内膜剥離術におけるガイドワイヤーを用いた内シャント挿入の有用性に関する研究」のお願いとお知らせ

頸動脈狭窄症に対して頸動脈内頸動脈剥離術が有用であることが報告されています。術中の脳虚血性合併症を予防する目的で内シャントと呼ばれる器具を使用する場合がありますが、日本人の頸動脈分岐部は欧米人と比較し高いことが知られており、頸動脈内膜剥離術において内シャント挿入が困難になる傾向にあるとされています。また、内シャントを挿入する場合に、血管内腔に入らず、動脈解離を引き起こす場合があることも報告されています。一方、脳血管撮影時にはカテーテルを安全に誘導するためガイドワイヤーが使用されています。本研究の目的は、内シャント挿入時に血管撮影にて通常使用されているガイドワイヤーを用いることの有用性について検討を行うことです。

平成19年4月から平成24年7月までの間で、当科でガイドワイヤーを使用せず内シャント挿入を行った患者さん（約40例）の臨床情報のうち、術前の神経学的症状、画像所見、内シャント挿入に要した時間、合併症の有無（嘔声、嚥下障害、脳塞栓、出血など）、退院時及び6ヶ月後の転帰をカルテから収集させていただきます。これまでの既存情報のみを用い、新たに研究のために患者さんから検体を採取したり検査を行う事はありません。

患者さんの臨床情報はID等の個人情報とは無関係な番号付与による匿名化によって管理され、プライバシーが保護されます。また、これまで手術をうけた患者さん（または親族の方）で、ご自分の臨床情報を研究に使わないでほしいというご希望があれば下記連絡先までご連絡をいただけますようお願いいたします。

なお、研究への使用の拒否の意思を表明されても、防衛医科大学校脳神経外科における診療には全く何の影響もなく、いかなる意思においても不利益を被ることはありません。

連絡先：防衛医科大学校病院 脳神経外科  
和田 孝次郎  
TEL：04-2995-1211 内線 2354